資料９

獣医学共用試験を実施するに当たって調査委員会・準備委員会でこれまでに検討してきた課題

― 今後の準備作業のための今後検討すべき論点整理 ―

― 調査委員会・準備委員会での議論の概要 ―

【2２つの検討課題検討課題】

１）臨床実習前の学生の質保証の方法としてどの様な手段があるか？

→ 結論：「医歯薬で実施されている共用試験以外の手段は見あたらない」

２）それでは、医歯薬看護に比べて規模の小さい獣医学分野で共用試験（ＣＢＴとＯＳＣＥ）を実施するのは無理ではないか、あるいは相当の工夫が必要ではないかという議論が、調査委員会では当初から行われていた。ことは可能か？

「臨床実習前の学生の質保証の方法として、共用試験以外の手段は見あたらない」との結論に至ったが、現在それでは獣医学独自の手法をどの様に構築するのか？

以下、２）の課題に関する準備委員会の検討状況について述べる。という議論へと移行している。

以下、その事項を列記するが、これらの諸2つの課題を如何に克服して行くかを検討するのが今後のに関する準備委員会の使検討状況について述べる命と考えている（個別のWGで検討）。

１．試験システム（ＣＢＴ）構築に要する費用： 医歯薬の共用試験システムの構築には、億単位の経費がかかったという。獣医学で負担できるのか？

① ―IT の発達のスピードは著しく、現在では数百万円の単位で、医歯薬で現在使われているものと同等あるいはそれ以上のシステムが構築できる。

② 科研費（24 年度分として申請予定）の調査費のなかから工面できるのではないか見通しがある。いずれにしても、目的を達成できるよう現実的な手法を選択するべきである。

2．試験システム維持のための費用： どの程度の受験料を設定すべきか？

医歯薬では 2.7 ～ 3 万円の受験料を徴収しているが、1 万円以下で維持できるのではないか。

3 2．ＣＢＴ用の機材： 現在医歯薬で使われているハードウェア（コンピュータールームと機材）をどの様に調

達するか？

① ―今、iPad、Android などの安価なタブレット型 PC が急速に普及している。すでに、iPad 用の CBT ソフトも開発され、コンピュータールーム等のハードウエアを必要としない環境設置が可能となっている。スマートフォンの利用も可能である。―(

② 無線 LAN 設備は必要として 20 ～ 30 万円程度（同時アクセス 100 端末：工事費込）で済むのではないか。)―

3．試験システム維持のための費用：
どの程度の受験料を設定すべきか？

① 医歯薬では 2.7 ～ 3 万円の受験料を徴収しているが、1 万円以下で維持できるのではないか。

4．ＯＳＣＥについて：
マンツーマンで行うＯＳＣＥの負担はＣＢＴ以上に大きいのではないか？

―① OSCE の主目的は臨床実習態度のチェックである。獣医学独自の現実的な手法やり方があるのではないか。いずれにしても、目的を達成できるよう現実的な手法を選択するべきであるを検討する（日獣大で企画している教育プログラムを全大学で共有するなど)。

5．問題作成の負担：
「国家試験ですら大変な苦労をしているのに、さらなる負担をどの様に教員に科すのか」？という問いかけにどう応えるか？

① ―共用試験問題は、特別な勉強をしなくとも 7 ～ 8 割の正解率が得られる易しい問題である。単純な問題文（1 行以内）と単純な選択枝（単語もしくは短い半行程度の単純な文章）で構成されるので、問題作成は容易である。獣医師国家試験の必須問題がひな形となる。

例： 問：細胞膜受容体に結合する生理活性物質はどれか。
1．アドレナリン
2．トリヨードサイロニン
3．コルチゾール
4．ビタミン A
5．エストロジェン　　（正解：1）

② ―現状の国家試験と異なり、コアカリに準拠した共通テキストにある内容が設問対象となる。従って、国家試験のような大きな負担とはならない。また、後述のように国家試験との連動も選択枝として考えることができ、負担増とならない将来像もある。

③ ―問題作成作業を依頼する総教員数を500名とすると、4題／1人で2,000題が集まる（ランダム出題方式のミニマムな数字）。5年間作業すると10,000題を超えるので、この時点で全ての問題を公開して構わない状況となる。

④ ―問題作成をWeb上で行い~~投稿~~集計するシステムも開発されようとしている。

⑤ CBTはランダム出題方式なので、国家試験ほどの機密性を必要としない。

⑥ CBTは4年次までの基礎学力を問うものであり、臨床系教員の負担はあまり大きくない。

~~例：　問：　細胞膜受容体に結合する生理活性物質はどれか。~~
~~1．アドレナリン~~
~~2．トリヨードサイロニン~~
~~3．コルチゾール~~
~~4．ビタミンA~~
~~5．エストロジェン　（正解：1）~~

6．国家試験との関係：
ＣＢＴの試験基準と国家試験基準との関係はどうなるのか？
二重の試験を強いられる学生からは不安の声が上がるのではないか？

① 医歯では共用試験を実質的な「第二の国家試験」と位置づける気運がある。また、医歯薬では、国家試験との整合性・連携をとろうとする議論が始まっている（日本医師会からのスチューデントドクター制の提案が一例：共用試験を厚労省が実施するという考え）。先行分野の推移を見守り、議論を始める必要もあるのではないか。

② 獣医学においても~~、~~将来的には、「国家試験の必須問題に相当する部分を共用試験が担当し、臨床・公衆衛生・家畜衛生に関するプロフェッショナルな部分を国家試験が担当する」という形にならないかという議論も必要と考えている。

③ 共用試験は入学時の契約に基づき実施されるので、在学中の学生は適応外であり、彼らに不安等の影響を与えることはない。国家資格を必要とする分野のほとんどで共用試験が実施されていることから、獣医師国家資格取得を目指す学生にとって、共用試験は当然のものとして受け入れ~~ることができ~~られるのではないか。

7．基準点の設定： 合格ラインの設定はどうするか？　各大学の自主性はどうなるのか？

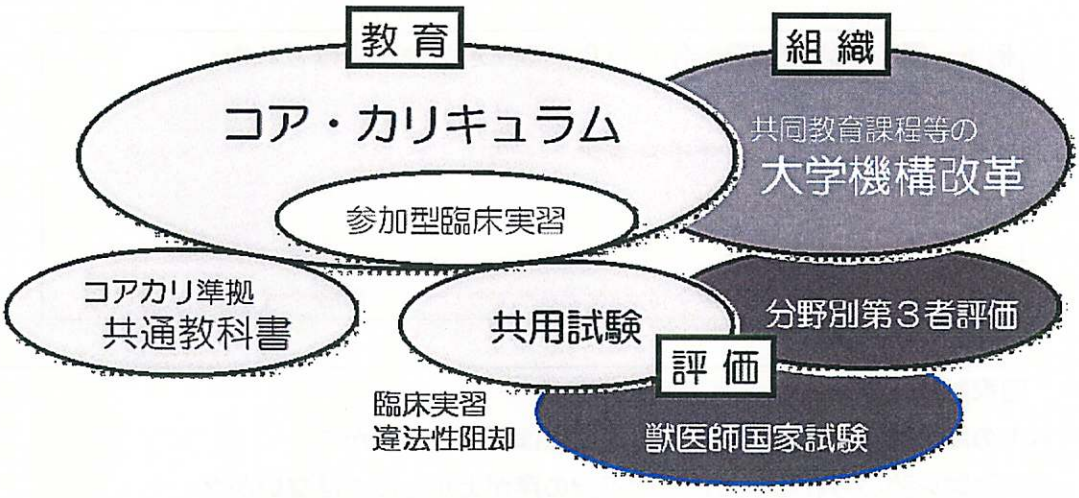
① 医歯薬では CBT で 6 割以上の正解率という全体合意はあるが、合否の水準はあくまで各大学の判断に任されている。例えば、進級試験との合算により決定しても構わない。

② 現状では、合格率は 95%を優に超えている。共用試験はあくまで基礎学力を問う試験である。

8．管理運営組織をどうするか？

① 医歯は「社団法人　医療系大学間共用試験実施評価機構」、薬は「特定非営利活動法人 薬学共用試験センター」として試験システム全体を管理・運営している。

② 日本獣医師会あるいは日本獣医学会の協力が得られれば、円滑に管理運営組織を構築できるのではないか。



【 新しい獣医学教育システムにおける共用試験の位置づけ】